

※情報共有メールは、プラチナサポートの特典となっております。プラチナサポート加盟店以外への共有、流用等は禁止されております。

※配信当時の内容のため、現状の内容と異なる場合もございます。予めご了承ください。

プラチナサポート情報共有メール

No.	673	配信日	2026/4/2	ジャンル	業界情報
テーマ	金相場の歴史的な乱高下、その理由とは				

2026年3月の金相場は、一言で言うと「歴史的な乱高下」でした。最高値（1オンス5,400ドル突破）を記録した直後、2008年以来となる歴史的な急落を見せ、一時4,200ドルを下回る場面もありました。なぜ、これほど激しく動いたのか？3つの主要因で解説します。

1. 「地政学リスク」の変化：緊張緩和と利益確定

月初はイラン情勢などの緊張から「有事の金」として買いが殺到しましたが、その後「停戦の兆し」や「対話の開始」が報じられるたびに、投資家はこう考えました。

「リスクが減ったなら、今のうちに高い価格で売って利益を出そう」

この「利益確定売り」が連鎖し、価格を押し下げる大きな要因となりました。

2. 「原油高」が招いた「金利上昇」という罠

通常、原油価格が上がるとインフレ対策で金を買われます。しかし今回は、原油高があまりに急激だったため、市場の予測が以下のように変化しました。

- 原油高 → インフレが止まらない → 米国中央銀行（FRB）が金利を上げる

金は持っているだけでは「金利」を生みません。そのため、米国の国債利回りが上がると、投資家は「利息のつかない金よりも、利回りの良い国債を持とう」と考え、金を売ってしまったのです。

3. 「ドル高」と「現金化」の動き

世界的に経済の先行きが不透明になると、最終的に一番強いのは「現金（米ドル）」です。

- ドル高の進行: ドルの価値が上がると、相対的に金の価格は下がります。

投資家が他の資産で損を出したり、現金を確保したくなったりした際、値上がりしていた「金」を売って現金を作る動きが活発化しました。

迷っているお客様に使えるトーク

「3月の金相場は歴史的な乱高下でした。主にイラン情勢の緊張による影響が大きいですが問題はまだその不安要素があるということです。3月のように『停戦の兆し』という速報が一本流れるだけで、一気に数十万円単位で価値が変わってしまうのが今の金の怖さです。『あの時売っておけばよかった』と思わないためにも、まだ高い水準である今売っておくのが一番安心な選択だと思います。

